

A Happy New Year

2007年を迎えて

JA3AA 島 伊三治

2007年を迎え各局に謹んで新年のお慶びを申し上げます。

さて、新春の年頭を飾って1月15日～25日まで行われるVU7RGのDXペディションは国際チーム34名によって3つの島に分かれて運用がおこなわれます。それぞれの島での運用者、運用周波数についても発表されています。

その一つBangaram島のOPは、JA3UB・JR3MVF三好さん夫妻、JA3IG葎谷さん、JA3NHL横内さん、JA3USA島本さん、WA6UVF、YT1ADの7名で、当ラジオクラブのメンバー5名と顔なじみのWA6UVFが主力で運用されることになっています。

また、QSLはITUの地域別に分担し、第3地域はJ13ZAGが担当することになっており、JA3AOP杉山さんとJA3PYC山本さんがその任に当たられることになっています。

この様に国際的な大規模のDXペディションに当ラジオクラブのメンバーが多数参加されることは誠に嬉しい限りで、クラブ全員が全力で応援し、このペディションの成功を祈るのものです。

今年は、大阪市とサンフランシスコ市が姉妹都市提携して50周年になります。

この姉妹都市提携が縁となり1970年の大阪万博でサンフランシスコ館に特別記念局JA3XPOを開設し、6ヶ月の長期運用、会員による公開運用等、初めての試みを実施し、サンフランシスコ館の名前をPRし、また多くの海外アマチュア局の訪問を受けたことにより国際交流の実績を示して、アマチュア無線の社会的認知度の向上に役立ちました。



その後、1977年には姉妹都市締結20周年を記念して、JARL関西地方本部長と大阪サンフランシスコ姉妹都市協会会長の連名で、両市の市章を組み合わせた賞状を発行するなどアマチュア無線と大阪市は密接な関係が長い間続き、今日の大阪国際交流センターラジオクラブまで引き継がれているのです。

今年度はクラブの事業として、姉妹都市締結50周年の記念行事には記念局を開設して、この半世紀に渉る歴史をPRしたいと準備を進めています。、会員各位の更なる御協力をお願いする次第です。2007年の各局のご健康と更なるご活躍を祈念いたします。 73

FCC試験 ONE Day Extra に挑戦

JA3FGN/AH0BG
武田 正博

10月のある日、JA3NHL(横内君)からMailが届き覗いてみると「ところで10月1日に名古屋でFCC試験を受けてきました。受験勉強できる時間が非常に少なく、9月28日・29日・30日しか勉強できませんので目的のエキストラ取得の計画を2回受験に分けることにしました。3日間の勉強をテクニシャンとジェネラルに絞って、約1200問の問題を片っ端から覚えこみましたが、頭が完全にパニックでしまいまして、30日の深夜3時頃は半狂状態(笑)で受験放棄を考えてしまいました。しかし、気持ちを奮い立たせ、ネットでの模擬試験を20回ほど繰り返して忘れかけているキーワードを思い起こして、名古屋に向けて出発いたしました。試験は意外とトントン拍子に進み、無事ジェネラルを取得いたしました。」「エキストラは10月14日に東京で受験する予定にしています。約800問ありますし、内容も大分ややこしいですが今の勢いと根性でがんばってみたいと思っております。来年2月には「N3HL」がもらえることを夢見てがんばります。」とのメッセージと共に、FCC試験の初級(Technician)中級(General)上級(Extra)の和訳入り問題集(Question Pool)が添付されていました。

ヒエー！VU7(Lakshadweep)ペディション参加はすごいモチベーション、ガンバツタものだと驚いていました。その後Mailと携帯でお前も「早く取れ」とのお達し、あげくは職場まで携帯とMail攻勢を受け「今は必要ないし又不自由もしてない」と断り続けていたのですが、思わず「来年の関ハムで受験する」と宣言してしまい、受験するからには「One Day Extra」を狙うと口が滑りかなりヤバイ状況に追い込まれてしまいました。

関ハムに向け、まずは小手調べとインターネットでTechの模擬試験にトライ点数もかなりのハイスコアで気を良くしこれなら、本格的にやれば何とかできるのではと直近の試験を調べると、年内は12月17日(日)岡山、12月23日(土)福岡で開催されるとのこと。

早速、岡山VEC(Voluntary Examiner Coordinator)へMailで受験申し込みを、FCCへFRN(FCC Registration Number)の登録と取得ここまで順調進み最後の難関、米国内でのアドレスが必要(米国内で郵便物を受け取ることができかつ日本に転送できるが条件)で、今回はレンタルP.O.Boxを手配し準備は整いました。

思い起こせば1アマ取得が35年前、この時も2アマを取得し安心しているとEX.JA3PFZ(河合先生)がクラブの飲み会で今回1アマに合格したそれも発での言葉に刺激され、それならどばか！半年後の試験を目標にスキー場迄カセットテレコを持ち込み和文の練習をしたことを思い出し何時も誰かに刺激されてばかりで……。

受験勉強開始が10月20日、試験日の12月17日まで約2ヵ月、毎日の通勤電車内で和訳付きのQuestion Pool(以下QP)にマーカペン入れ、帰宅してからエキストラ養成ギブス(ソフトyH7BZR)にて正解できない問題を選び出し再度理解するを反復しサブエレメント9のを正解まで次に進まないで決めTechnicanを1Weekでマスター、GeneralへClassUPするのと同時に問題も長文化し表現も理解できなくなってきました。

このクラスはマスターできる迄1.5Weekかか
 の時点でTech Classを総当りしてみるとすっかり
 記憶のかなた完全に自信喪失状態。

各クラスQPIはElement2.Technician 384問、Ele
 ment3.General 385問、Element4.Extra 803問
 の合計 1572問を記憶すれば完璧。試験はEle
 ment1.Technical Plus 5WPM (毎分 25字)の
 モールス受信、Element2、Element3、Element4と
 順番に受験し合格しなければ次には進めませ
 ン。(電卓使用可) 出題数はTech,Gen共に35
 問 Extraが50問で四者択一共に正解率が74%
 以上、電信は受信内容に関する問題で10問
 中7問正解または1分間のソリッドコピーでAR、B
 T、KN、等の書き取り必須。

試験まで残り16日弱Tech,Genの記憶を維持し
 ながらExtraのQPへ、ところが風邪でコンデシ
 ン最悪状態となり1Week Loss、ExtraQP手付かず
 状態試験日迄残り10日もつ時間が無い(おまけ
 に送別会2件、忘年会1件の予定あり) 背水の陣でExtraのQPIは
 サブエレメント1~3迄の213問(法規系だけ)を重点特化し残り
 サブエレメント4~9迄は(工学系なので)公式の整理に留める
 特に交流の並列回路、アドミッタンスの計算はややこしいので出
 たら捨てるの戦略を立てる。(正解だけを記憶すればOKだがそ
 の余裕なし交流並列回路系は合計10問程度あり)

試験日3日前Tech,Gen,Extraの単純記憶する数字系(バンドブ
 ラン等)整理しプリントアウトし一冊にまとめるが記憶作業が手付
 かず。この時点でone day Extra締め、Tech,Genだけに特化する
 かを考え始める。試験前日の土曜日朝から全クラスQP総当り
 にトライし終了したのが試験当日午前4時、各クラス各サブエレ
 メントは80%~95%確保できている事を確認し仮眠を取る。朝9時
 起床朝一AA9PWのサイトでモールスの模試をやってみるが数字
 が取れない特に3、4、5、6、7が入るとNGヤバイ(16WPM)不
 安を抱きながら岡山へひかりレールスターの中で記憶用アンチ
 ョを広げ数字の記憶に集中する。1時間で岡山着試験開始まで
 1.5時間岡山駅西口で軽くラーメンを昼食になんと¥290安
 い! 駅から徒歩20分程度で試験会場(ドンソーを口ずさみ
 ながら)に到着、既に受験者1名とVE(Voluntary Examiner)が2、3
 名最終的には受験者は私を含め3名エレメント1からは私だけで
 他の2名はExtraのようでしたが詳細不明またVEは最終的には6
 名ぐらいたったと思います。

いよいよ13:00試験開始、受験申請書記入
 これには大失敗予めホームをダウンロードし必
 要事項を記入おいたのが3箇所記入ミス大慌て
 益々緊張し電信どころではありません。いよいよ
 電信の試験開始他の2名が筆記試験解答の横
 でCDラジカセのSPを鳴らし他人の迷惑かえり見
 ず状態、テスト受信が30秒程度でいよいよ本番
 5WPM 5分間受信電文の内容はQSOで電文終
 了後も納得の行くまで見直し修正可で、本人が
 提出する迄何時間でもOK。ソリッドコピー自信あ
 りで一度軽く見直し提出、受信内容に関する問
 題は無くソリッドコピーのチェック待つこと約1
 0分3名のVEが相互チェックし合格となる。

いよいよTechの筆記試験開始その前に自動販
 売機へ飲み物持ち込み可で飲みながらの受験
 約15分で解答提出待つこと10分合格です。G
 en行きますか? ハイと返事し約20分で解答し提
 出やはり待つこと10分合格です。
 Extra行きますか? ハイと返事し休憩無しです
 か、無しで行きますと答え。(ここで止める受験者
 が多いとか)

American Radio Relay League/VEC			The applicant named herein has presented the following valid exam element credit(s) in order to qualify for the license named category indicated below. Circles are held test from one or more of these categories: -for pre-3/21/97 Technicians circle 302197 Tech-EL 1-3 -for pre-2/14/91 Technicians circle 201491 Tech-E1 1. -for lifetime Novice class credit circle Novice-E1 1. -for a valid or expired less-than-5-years FCC Radiotelegraph license/permit circle FCC Telegraph-EL 1. NOTE TO VE TEAM: COMPLETELY CROSS OUT ALL BOXES BELOW THAT DID NOT APPLY TO THIS CANDIDATE.
VEC: CERTIFICATE OF SUCCESSFUL COMPLETION OF EXAMINATION			
Test Site (city/state):	OKAYAMA JAPAN	Test Date:	DEC 17, 2006
CREDIT FOR ELEMENTS PASSED You have passed the telegraphy and/or written element(s) indicated at right. You will be given credit for the appropriate examination element(s), for up to 365 days from the date shown at the top of this certificate, if you wish to upgrade your license class again while a newly-upgraded license application is pending with the FCC.			
LICENSE UPGRADE NOTICE If you also hold a valid FCC-issued Amateur radio license grant, this Certificate validates temporary operation with the operating privileges of your new operator class (see Section 97.9(b) of the FCC's Rules) until you are granted the license for your new operator class, or for a period of 365 days from the test date stated above on this certificate, whichever comes first. Note: If you hold a current FCC-granted (codeless) Technician class operator license, and if this certificate indicates Element 1 credit, this certificate indefinitely permits you HF operating privileges as specified in Section 97.301(e) of the FCC rules. This document must be kept indefinitely with your Technician class operator license in order to use these privileges.			
LICENSE STATUS INQUIRIES You can find out if a new license or upgrade has been "granted" by the FCC. For on-line inquiries see the FCC Web at http://www.fcc.gov/wtb/uls ("License Search" tab), or see the ARRL Web at http://www.arrl.org/fcc/fcclook.php3 ; or by calling FCC toll free at 888-225-5322; or by calling the ARRL at 1-866-594-0300 during business hours. Allow 15 days from the test date before calling.			
THIS CERTIFICATE IS NOT A LICENSE, PERMIT, OR ANY OTHER KIND OF OPERATING AUTHORITY IN AND OF ITSELF. THE ELEMENT CREDITS AND/OR OPERATING PRIVILEGES THAT MAY BE INDICATED IN THE LICENSE UPGRADE NOTICE ARE VALID FOR 365 DAYS FROM THE TEST DATE. THE HOLDER NAMED HEREON MUST ALSO HAVE BEEN GRANTED AN AMATEUR RADIO LICENSE ISSUED BY THE FCC TO OPERATE ON THE AIR.			
Candidate's signature:	Masahiro Takeda	VE #1:	Mitsumasa Ube N2ANR signature call sign
Candidate's name:	MASAHIRO TAKEDA	Call sign:	NONE
Address:		VE #2:	Yoshio Nishimura K3JA signature call sign
City:		VE #3:	Mitsuhiko Omine K8VR signature call sign
State:		City:	
ZIP:		Candidate's copy-white/ARRL/VEC's copy-pink/VE Team's copy-yellow	

いよいよONE Day Extraに挑戦 50問約1時間弱(もう受験者は私一人にVE6名の無言の時間が続く)で解答し提出この時点で15:00採点の待ち時間が非常に長く感じ緊張状態。

「武田さん、おめでとう合格です。」ヤッター One Day Extra達成!! CSCE (Certificate of Successful Completion of Exam) を作成しますの少々お待ちくださいとの事、後かたづけをしながら興奮状態で、CSCE内容チェック間違いがなければサインしてくださいと言われチェックするも何をしていたのかHomeに戻りCSCEを見ているとヤバイP.O.Boxのアドレスが間違っているゼロが一個少ない、大慌てでMailにて訂正を依頼する。FCCのULS (Universal Licensing System) にコールサインがアサインされる迄。心配しましたがやっと12月22日にAH0BGがアサインされました。もうすぐ還暦ボケ封じを兼ねFCC試験に挑戦してみました、この2か月間弱自分自身よく集中力が維持できたなど感じています。充実した2か月でした。その後知ったのですがFCCの12月15日の公報でモールスの試験を全廃したとか発効は07年2月とのことですが、12月23日の福岡VECはこの制度を適用するとか。(Home Pageから)

73 73 DE JA3FGN/AH0BG TU..



DX and Contest meeting in UA3

JA3USA
島本正敬

2004年のAsia Pacific DX Conventionにモスクワから参加してくれたUA3AB、RA3AUU、RZ3AAからの誘われモスクワ郊外Domodedovoで毎年開かれるというロシア国内のDX-erやコンテスターのミーティングにとうとう参加する機会がやってきた。このミーティングは毎年9月最後の週末に行われ、2006年は9月28日(木)～10月1日(日)。

9月28日朝に成田経由で大阪を発ち、ミーティング終了の翌日10月2日にモスクワから戻るといふ最短の滞在スケジュールながら参加する機会を得た。出発同日の夕刻にモスクワに到着。税関から出て間もなく迎えに来ているはずだが、彼の姿はなく、見知らぬ男性が持っている「JA3USA」の文字が目に入った。この人はロシア語以外話さない様子で困惑していたら彼の携帯電話がなった。Andyが仕事で空港に来られなくなったので、この人がAndyの事務所まで連れて行ってくれるとのこと。夕方の通勤時の大渋滞で30～40分と聞いていた道程が2倍以上の90分も掛かってAndyの事務所にやっと到着。モスクワ到着の夜とモスクワを離れる前夜はAndyの家でと言う。正直言って誰かの家でお世話になるというのは余り好きではないのだが、初めてのロシアで家庭を見せて貰えるのはありがたい。彼の言葉に甘えることにした。彼の家はモスクワ中心部に程近い高層マンション。驚くようなコンテンポラリーのデザインで統一されたすばらしい室内。後でこの種の住宅の価格を聞いて、納得。でも、ハムは？ アンテナは？ そこから車で1時間弱離れた郊外に週末を過ごす家があり、そこにシャックがあるという。

翌朝、朝食を終えると彼の運転で、ミーティング会場へと出発。モスクワを取り囲むよ外環高速道路から南に伸びる高速道路へ30分も走れば広々とした平原に差し掛かる。高速道路を出て田舎道をしばらく行くと、会場の入り口に差し掛かった。そこには遮断機があり警察か軍隊のような制服を着たガードが立っている。Andyは車から降りて何か書類のようなものを見せたりしている。ここは一体？ 遮断機が上がり、無事入場すると、Andyの口から驚く話が飛び出した。

ミーティング開始当初の話したが、数百人が宿泊や食事ができ、ホールや会議場がある会場、それも安価な場所を物色したとか。その時の主要メンバーの一人であるこの地区の市長がこの場所を見つけ、交渉の末、使用許可を得たのがここだそうだ。この場所、なんと立ちも黙るKGBのレクリエーション施設とのこと。これまではロシアと日ソ連の共和国からのハムだけだったので問題が無かったのだが今回は外国人が来るので特別な書類の準備が結構大変だったと聞き、やはり遠い国に来たと再確認。もっとも、そんなおどろおどろした感覚はすぐに消えてしまった。このレクリエーション施設は敷地内に湖まであるずいぶん広大で、森の中に点在する宿泊施設は見かけただけで20数棟、10室程度のホテル形式のツインの部屋がそれぞれの棟にあるから500～600名の参加者を十分収容できる。滞在中は会場内のレストランで三食いただくのだが、全ての参加者の席が決まっていたことから、参加者全員が同時に食事できるだけの設備であることになる。こんなに大きな参加者数を相手にビュッフェスタイルではなく、それぞれの食事がテーブルにサーブされるのにも驚かされた。

会場では特別記念局R73SRR(SRRはロシア無線連盟の略)が運用されパイルアップを裁いている。ロビーでは業者ブースがあり4～5社が展示をしていた。無線機はIcomとVertexで僕にとっては目新しいものはないし、他のアクセサリもロシア以外でも見るものばかりだった。

参加者が続々集まってくる。外人ハムが珍しいようで、QSLカードをくれたり一緒に写真をと声をかけてくれる。



UA3AB 彼のオフィスで



参加受付カウンター



宿泊棟とJA3ABのRangeRover



自分の部屋の前にアンテナを建てる

30枚程度といつもより多くのQSLカードを持参したが、全く足りず、QSLカードを貰ってはお詫びの連続。少なくとも100枚以上の写真に納まることになった。英語の堪能な人、苦勞して英語で話してくれる人、やはりお互いハム。ロシア語ができなくて、一人ぼつとなることも覚悟していたが、そんな時間は全くなかった。午後からはホールでプレゼンテーションだ。4スクエアアンテナの詳細な実験レポート、20/15mの八木の制作等が夕方まで続いた。午後5時になると殆どの参加者が建物の前に出て立ち話を始めた。そこへ誰かが赤と青のユニフォームらしきものを持って現れると、待ちかねた10人余りがそれを奪うように受け取った。それが終わると立ち話をしていた多くの人々が移動を初め、着いたところは敷地内のフットサル場だった。どこで着替えてきたのか、DXCCとOTAと背中に書かれたユニフォームを来た人達が練習を始めていた。このミーティングの恒例行事のフットサルの試合だとか。これを楽しみにこのミーティングに参加する人がいると言われるほど白熱した試合が展開され、2006年はDXCCの勝利で試合を終えた。夕食の後、いくつかのグループがあちこちの部屋に集まってワイワイするのだとか。唯一の外国人を誘ってはくれるのだが、時差ほけに加え疲れもあって丁寧に断りして部屋に戻るとあっという間に眠りにおちた。



RA3AUU Harryの新車は僕の車と色まで一緒！



金曜日で空席もあるプレゼンテーションの会場



右から UA3TCJ, RA3TT, RA6LBS, UT5UV, RZ4HF

ミーティングの立看板



R73SRRのトライバンドビーム



ロビーとホールのある建物



UA3AB(左)とホールでのプログラムの司会進行をしたUA90BA

土曜日の朝は、ホールでのプレゼンテーションで始まった。このホールは300~400名くらい入る程度の大きさで、金曜午後は空席が目立ったが、この日は両脇の通路に立っている人も見かける。やはり土曜日、参加者は明らかに増えていた。S79RRC、R7Cの話とビデオに続いて、UA3ABによる3Y0Xの話、EY0Rのロシアコンテストとビデオ。ビデオは大変良く出来ていて恐らくプロ級の人が制作に携わったに違いない。どれも9V1YCのDXペディションビデオに近いレベルなのには驚いた。午前中最後のプレゼンはJA3USA。日本のアマチュア無線事情をUA3ABによるロシア語翻訳の助けを借りて話した。質問も結構ありJAに関心を持っていることが判り嬉しい。

昼食を挟んで、午後の最初はVHFコンテストだ。それぞれ持参の144MHzのハンディを使って会場内だけで行うコンテスト。会場のあちこちにはトランシーバを片手にログを取る人々。結構真剣で大変な盛り上がりを見せた。

午後のプレゼンテーションの最初は、R3CA本人によるR3CA/0の北極エキスペディションだった。困難な北極一周と熱気球での極地飛行等が紹介された。R1MVWのIOTAペディションもRA6LBSの解説でビデオが上映された。

プレゼンテーションの合間には、テープ再生によるSSBやCWのパイルアップからコールサインをどれだけコピーできるか競うパイルアップコンテスト、DX/IOTA/コンテストに関するクイズ等、楽しいゲームも用意されていて、あっという間に時間が過ぎていった。そして関係者の挨拶等があり午後5時過ぎには晩餐会を残して主なプログラムを終了した。



特別記念局 R73SRR
最近ロシアの最大電力は
200Wから1KWになった。
この局も1KWで運用



ロシアアマチュア無線連盟旗



フットサルの試合



勝利を喜ぶDXCCチーム



会場でのVHFコンテスト





DX and Contest meeting in UA3 土曜の夜の晩餐会

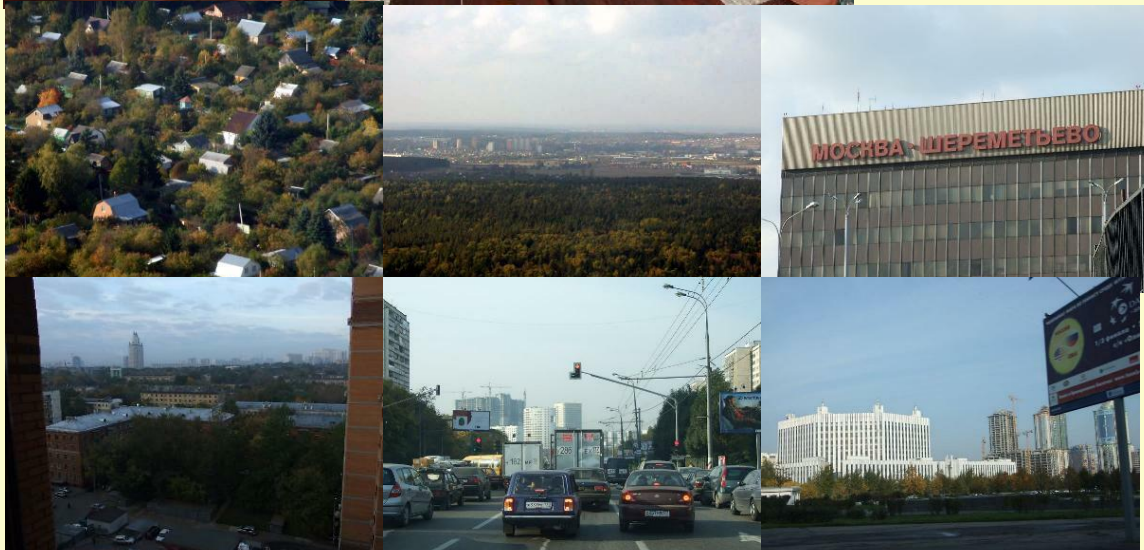
晩餐会はいつものレストランではなく、素敵な場所が用意されていた。テーブルにはロシアのいろいろな食べ物、ワインからウォッカまで多様な飲み物がところ狭ましく並んでいる。参加者は何と350人。夜7時に始まり 終了は午前1時か2時とか。食事が始まって少したった頃、主な参加者が紹介される。ひとりの女性が紹介され、椅子の上に立って皆に手を振って挨拶をした。ロシアの宇宙飛行士だそうだ。この会場を見つけた地元の市長DX-erも紹介された。話しに盛り上がっているテーブルの間を、瓶を片手に移動しながら別のテーブルへ行って「まあ一杯」。ウォッカで鍛えたせいも、皆さん良く飲むこと、それに良く食べることも、賑やかなこと。夜の更けるのも忘れて350人すべてが盛り上がっていた。ベラルーシ、ウクライナ、タジキスタン等の旧ソビエト連邦の共和国から、またUA1からUA0のロシア各地から遠路の参加者も多い。8時間飛行機に乗ってきた人、自動車でも片道3日かけて来た人、未だ10月に入ったばかりだというのに、家では前夜に降雪があったと言う人。日曜の朝、みんな楽しい週末を過ごし翌年の再開を楽しみに Domodedovo を後にした。



UA3ABの80m 3エレと40m 3エレ。シャックにはIC7800が2台



各部屋が一戸建てになったレストランでJA3USA, RZ3AA, UA3AB



JI 3ZAG
 Roll Call
 14.155MHz
 0900JST
 Saturday

Club Meeting
 2nd Friday
 1800 - 2000 JST

e-mail
ji3zag@ja3.net